

資料 2-2

各専門委員会活動報告

科学委員会 活動報告・今後の課題

令和4年度 科学委員会 活動報告と今後の活動方針

報告者 中澤 公孝(科学委員会委員長)

1. 委員会の開催

第1回委員会:令和4年6月3日(金) オンライン会議

第2回委員会:令和5年3月6日(月) オンライン会議

2. 活動内容

①パラスポーツに関連する各種調査研究事業

統括競技団体との連携の下、実態調査他、各種調査研究事業を実施する。JPSA から要望を受け、科学委員会としてその必要性が認められた調査研究事業を連携して実施し、専門的見地からサポートした。また、必要に応じて、日本スポーツ振興センター(JSC)、スポーツ庁とも連携を行った。

②パラスポーツの普及拡大に寄与するための諸種科学的根拠の構築

障がいがある人にとっての運動の意義、二次障害問題などに対する科学的アプローチによる理論基盤を構築し、パラスポーツの特性を科学的見地から評価することを今後に向けて検討した。

*各種パラスポーツ実施時のエネルギー代謝データベース化。障がい毎、競技毎のデータベースを構築。文献調査と測定によるデータ収集と整理。

③競技力強化のための科学的サポート

JPC 医・科学・情報サポート事業に参画している委員が中心となり、科学的サポートについて検証した。現状と課題について議論し、必要であれば科学委員会の立場から提言を発信した。

④シンポジウム、報告書などパラスポーツ科学に関連する情報発信

No Limit 誌に3回原稿寄稿(科学委員会ページ)JPCのHPにパラスポーツ科学に関する投稿をおこなった。

3. 令和4年度 JPC 医・科学・情報サポート事業への協力

(1)本委員会委員の協力体制:今年度は活動可能な範囲での協力に止まった。

(2)次年度事業への協力

令和5年度も引き続き協力を行う。但し、新型コロナウイルス感染の状況、JSC(日本スポーツ振興センター)およびJPCのパラリンピック競技強化に係る事業の方針・実施状況によって変更する可能性がある。

(3) これまでのフィットネスデータの整理

パラスリート の競技別、障害別フィットネス特性を明らかにすべく、これまでに蓄積されたフィットネスデータの解析を進めている。

4. 他の委員会等への参画と協力

① 日本パラリンピック委員会運営委員会 委員

5. 今後の活動

(1) 医学委員会および技術委員会と協力し、パラスポーツの普及と振興に寄与する研究成果を蓄積し、それを発信する。また、障がい者スポーツ指導員およびスポーツコーチの養成と資質向上に貢献する。

(2) 競技者の国際競技力向上のための施策および事業について、「科学的な根拠の基に全面的に支援する」というビジョンをもって、下記の事項に対応する。

① パラスポーツの発展に貢献する研究を行う。

② 本委員会の主たる活動に、支援学校や競技現場での科学的知見に基づいた指導や上達に関わる基礎研究がある。そこでは、勝利至上主義や精神論に頼った指導ではなく、科学的に裏付けられた選手の実力発揮や競技力向上ならびに選手育成に貢献するとの立場から関わってきた。今後、さらに現場からの理解を得ながらこのような活動を推進していく。

③ 研究成果の蓄積および発信を行なう。具体的には、国内外での学会発表および書籍の刊行、本協会の情報誌への継続的な掲載や、JPC 研修会を開催する。

④ 要請があれば講習会カリキュラムや指導教本に準拠した講習会の講師にあたる。

⑤ 日本パラリンピック委員会の選手強化事業に参画し、選手・コーチをサポートする。次世代選手の育成・強化プログラムの積極的な参画を志向する。

という課題の達成を目標として活動を行なう。

<参考資料:科学委員会について>

1. 科学委員会の運営について

本委員会は、協会、医学・技術各委員会、および日本パラリンピック委員会強化委員会と連携して、下記の事項を行なう。

(1) パラリンピック日本代表選手の強化に関すること。

(2) JPC 医・科学・情報サポート事業に関すること。

(3) パラスポーツの振興・普及に関すること。

(4) 研修会・講習会への講師の派遣に関すること。

(5) その他協会が必要と認めた事項。